

新基地建設反対名護共同センターニュース

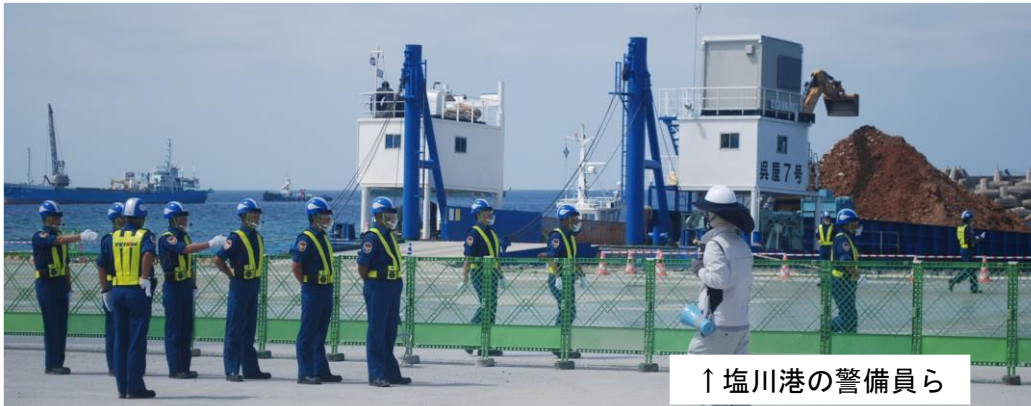
1日2600万円の警備費をコロナ対策に回せ！

安和・塩川港で赤土搬出へ抗議続く

本部町の塩川港と名護市安和の琉球セメント棧橋では、琉球セメントの鉱山から掘り崩した違法な赤土を輸送船へ積み込む作業が続いています。

塩川港で3月16日、台船五隻に土砂（1隻当たりダンブ140台分、合計約700台分）が積み込まれました。沖合で台船から運搬船に積み替え、運搬船は一両日中大浦湾に運び、台船に積み替え、K8とK9護岸からダンブで辺野古側の海に埋め込めています。

この日、地元の島ぐるみなどの3人が監視と抗議活動を続けていました。その周辺には楸ティケイの警備員がおよそ100人態勢で警備に当たっています。抗議の女性は「私たちは3人なのに過剰警備です。辺野古新基地のための警備費は1日約2600万円使っているそうですが、この税金をコロナ対策に回すべきです」と話していました。



↑塩川港の警備員ら



↑琉球セメント安和棧橋入口の抗議行動



↑塩川港内の島ぐるみのバナー



大浦湾には赤土満載の台船

15日（月）の朝8時半。大浦湾の水平線上には塩川港からの運搬船5隻が見え、湾内には違法な赤土を満載した台船1隻が停泊していました。地元住民は、「防衛局は今週も埋立て工事を強行するぞ、と県民の民意に挑戦しているかのような光景だ」と話していました。

接触を避け 県民がゲート前の抗議展開



県民は「違法工事は中止せよ！」などと声をあげ、たたかいの歌を響かせています。

17日朝のキャンプ・シユワブゲート前では40人ほどが座り込み抗議活動を展開しました。司会の平和市民連絡会の高里鈴代さんは「アメリカの知識人や労組などから米軍の海外基地は撤退すべきとの意見も出ている。機動隊とは接触を避け、自ら移動し抗議活動を続けましょう」と訴えました。

名護民商が最高現勢を更新し集団申告

名護民主商工会（民商）は12日、3・13重税反対統一行動を行いました（写真）。名護民商はこの春の運動で昨年以降の会員の過去最高現勢をさらに更新し、16日現在の会員は714人となりました。また、沖縄民商も825人となり過去最高現勢を更新しています。沖商連としても今月中にも過去最高現勢の2400人を突破する勢いです。新入会者から「コロナ禍で持続化給付金や確定申告の相談にのってもらって本当に助かりました」と感謝の声が寄せられています。



銃で武装した米兵が県道を歩行

宮城秋乃さんが高江で遭遇

東村高江の米軍北部訓練場のゲート付近の県道70号線で7日、武装した米兵らが徒歩で移動する様子が確認されました。米兵を乗せたバスが県道に駐車し、約20人の海兵隊員が銃を持って基地内に入る様子を、ゲート付近にいたチヨウ類研究者の宮城秋乃さんが目撃したものの、宮城さんは具志堅隆松さんに連帯し、1日〜6日まで南部の土砂を辺野古に搬出することに抗議して同訓練場ゲート前でハンストをしました。7日も現場にいて遭遇しました。

宮城さんは「徒歩で移動する場合でも、市民が通る一般道での銃の携帯は非常識です」と話しています。

（写真：宮城さん提供）

